

まず混合たい肥を試験生産 黒崎地区ハウス2棟に利用



養殖コンブ加工に精をだす堀内の上田昭一さん(55)と、育代さん(50)夫婦(6月のコンブ作業から)

養殖コンブの未利用部分を混ぜたたい肥生産は、村和野山地区のいわてくじ農協のたい肥製造施設で六月から開始されました。牛ふん、木材片、微生物活性化資材を混合させ、コンブの未利用部分一二〇リを三回に分け、一週間ずつ間を置き切り返しを行いなから発酵させます。

たい肥は九月に完成し、農地開発事業で造成、整備した黒崎地区の二棟のパイプハウスで利用されます。ミニトマトとホウレンソウが十月上旬に試験的に作付けされます。また同ハウスで、トマトの後作として寒締めホウレンソウが作付けされる予定です。

海藻を肥料として用いることは、成長促進や食味改善の

効果が期待され、意図的に田畑に海藻を入れることが日本をはじめ、中国、ヨーロッパ沿岸部で古来より行われてきました。

海藻肥料には次のような特徴があります。

- ①分解がはやい
- ②雑草の種子や病菌の胞子、害虫卵等が混じらない
- ③海水由来のカルシウム、マグネシウム、カリウムなどが多くミネラルに富む
- ④オーキシン、サイトカイニンなどの植物ホルモンが作物生育を活性化する
- ⑤ヨウ素や食塩が作物の生育を促進する

コンブとワカメの未利用部分は、ウニやアワビのえさとして海洋給餌されてきました。が、処理しきれぬ量ではなく悩みの種となっていました。

委員の小丹定光さん(五四・堀内)、太田保正さん(四七・太田名部)は「コンブの残さを利用してもらえて本当によかった。肥料として成功してほしい。将来は太田名部に処理場を作っていただくことを期待しています」と、笑顔で語ってくれました。

実践営農を開設 コンブたい肥利用して ミニトマトの試作!

農地開発事業で造成、整備した黒崎、和野山、向野場地区の農地や施設を有効利用して地域の特性を生かした作物の作付けを行います。特にホウレンソウはコンブ残さたい肥を利用します。

新たな資源の有効活用と農漁業の有機的な結びつきは漁業と農業相互の生産性向上につながっていきます。また農業においては所得の向上、担い手不足や遊休農地の解消など合わせて新規農業者の育成や参入促進を図るなど村農業改良普及協議会が主体となって、次のとおり実践農場を開設いたします。希望の方はお気軽にお立ち寄りください。

開設場所	実証作物	規模	設置予定期間	備考
黒崎地内	ミニトマト	100㎡(ハウス1棟)	10月上旬まで	
"	ほうれんそう	100㎡(ハウス1棟)	10月下旬まで	
"	寒締めほうれんそう	200㎡(ハウス2棟)	12月上旬まで	トマト後作
"	"	251a(露地7団地)	12月中旬まで	
"	菜の花	122a(露地4団地)	翌年5月まで	鎌きこみ
和野山地内	"	18a(露地1団地)	"	"

問い合わせ先 村農業改良普及協議会事務局(役場農林商工課)
☎0194-35-2115 三上・上戸鎖・泉山

図1 コンブ加工と未利用資源の発生フロー(作業工程)

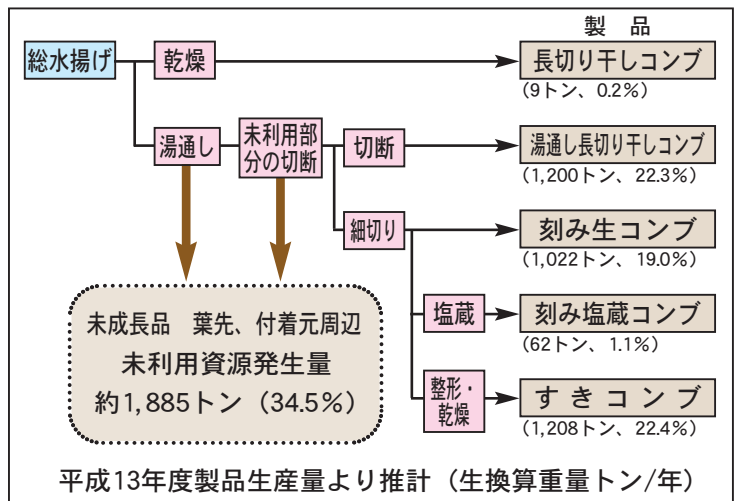


図2 ワカメ加工と未利用資源の発生フロー(作業工程)

